

平成 17 年 4 月 28 日確定

平成 16 年度第 3 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

開催日時:平成 16 年 3 月 2 日(水) 14:00～17:00

開催場所: 京都大学防災研究所 5 階会議室 (D-1518)

出席者:山岡耕春、高濱信行(代理:和泉薫) 沖村孝、佐々恭二、藤田睦博(代理:田中岳) 源栄正人、渡邊邦夫、松永信博、寶 馨、千木良雅弘、田中仁史、新野宏、岡田義光、林春男(代理:川方裕則)

オブザーバー出席: 田中孝紀((財)地震予知総合研究振興会・部長)

事務局: 岡本 健(研究協力課長) 桑原博文(共同利用掛長)

欠席者: 辻本哲郎、辻本剛三、堀宗朗、石原和弘

オブザーバー欠席: 井上和也所長、中村隆行防災科学技術推進室長

(順不同、敬称略)

配付資料:

資料 1 「平成 16 年度第 2 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録(案)」

資料 2 「京都大学防災研究所自然災害研究協議会出席者名簿」(差し替えあり)

資料 3 「北海道地区資料」(冊子 2 冊封筒入り)

資料 4 「東北地区部会活動報告」

資料 5 「中部地区部会報告」

資料 6 「関西地区部会後援:土木学会平成 16 年 10 月台風 23 号災害緊急調査団による調査報告会」(添付冊子あり)

資料 7 「平成 16 年度西部地区部会活動報告」

資料 8 「平成 16 年度突発災害研究等のまとめ」(平成 16 年 3 月 2 日現在のもの)

資料 9 「防災研究フォーラム平成 16 年度事業報告」

資料 10 「平成 16 年度データベース関連報告」

資料 11 「平成 16 年度河川災害に関するシンポジウム」

資料 12 「平成 16 年度予算執行状況」

資料 13 「次期(平成 17・18 年度)協議会の構成について」

資料 14 「平成 16 年度関東地区部会活動報告」(添付冊子 2 部あり)

資料 15 「第 41 回自然災害科学総合シンポジウム報告書」(冊子)

(議事)

1. 協議会議長挨拶：佐々議長より開会の挨拶があった。
2. 前回議事録確認：配布資料確認の後、前回議事録の確認を行った(資料1)。オブザーバー出席者の中村隆行氏の身分の記載ミスがあったので修正した((誤)室長補佐→(正)室長)。
3. 出席者(代理)の確認：出席者名簿(資料2)に記載間違い(新野委員が欠席になっていた)ので、出席に書き換えたものを配布、差し替えた。
4. 平成16年度の活動報告(次年度活動予定(決定分があれば)も含む)：

(1) 第41回自然災害科学総合シンポジウム(資料15)

田中委員より10月27~28日に行われたシンポジウムの概要について説明があった。また、次年度の第42回をどうするかについて審議を行い、場所は関西地区、日程を早急に決めて早いうちに報告することとした。日程と場所決めは田中委員が担当する。実行委員会委員長は、次期関西地区部会長にお願いしてはどうかとの意見があった。

(2) 人材データベース

佐藤前企画担当委員のもとで進められている人材データベースの進捗状況について、総務より簡単に報告された。各研究者に登録をお願いしていたが、各地区から提出されたデータを入力中とのこと。

(3) 地区部会報告(資料3~7、資料14)

【北海道地区】(資料3)田中岳氏(藤田委員代理)より、冊子資料「国内外4豪雨災害に関するフォーラム」、「2003年スリランカ水害調査報告書」が配付され、災害調査報告会を土木学会と共催で行ったことが報告された。

【東北地区】(資料4)源栄委員より、東北地域災害科学研究集会(1月6-7日、鶴岡、山形大・農)、東北地域災害科学研究第41号の刊行予定、三陸はるか沖地震10周年事業(12月3-4日)、第3回宮城沖地震シンポ(3月19日仙台)の協力(後援)、人材データベースの作成などについて報告があった。平成17年度の予定として、東北地域災害科学研究集会は福島で開催予定であること、第24回日本自然災害学会学術講演会(11月17-18日)及びオープンフォーラム(11月19日)、第4回宮城沖地震シンポ(3月19日仙台)の開催に協力(後援)する。

【関東地区】(資料14+冊子2部)渡邊委員より、「埼玉県を中心として足固め

し、関東全域へ」という目標のもとに行われた二つの活動の説明があり、冊子資料が配付された。一つは、市民啓蒙活動「彩の国」市民科学オープンフォーラム「斜面崩壊による土砂災害から身を守る」(1月18日)であり、もう一つは、「平成16年7月新潟・福島、福井豪雨災害に関する調査研究中間報告会要旨集」(11月19-20日)で、関東地域の災害即応体制を整備して新潟中越地震災害調査のような活動を行えるようにしていきたいことが報告された。平成17年度の活動として、関東地区の他大学との具体的共同行動を目指すこと、市民オープンフォーラムを他県に広げることが挙げられた。

【中部地区】(資料5、辻本哲郎委員欠席のため総務が代理報告)ハザードマップワークショップ(11月14日)、台風21・22号災害調査ワークショップ(1月14日)が名古屋大学環境総合館で開催された。平成17年度の活動方向として、法人化移行後有名無実化している名古屋大学中部自然災害科学資料センター機能の復活をはかり地区部会の受け皿とする。名古屋大学災害対策室との連携、地区シンポジウム、ワークショップなどを計画する。

【関西地区】(資料6+冊子、辻本剛三委員欠席のため総務が代理報告)台風23号災害の調査報告会(3月3日、キャンパスプラザ京都)の冊子資料が配付され、関西支部として後援(概要集印刷費を補助)することが報告された。

【西部地区】(資料7)松永委員より、防災フォーラム「洪水・土砂災害に関するフォーラム」(1月12日)、災害シンポジウム・研究発表会(2月5日)が九大筑紫地区で開催された。平成17年度は、防災フォーラム(12月頃)、災害シンポジウム(2月第1または第2土曜日)どちらも九大国際ホールで開催予定。17年度予算の申請額が提示された。

- (4) 突発災害調査報告(資料8): 千木良委員・山岡委員より、計画調書や交付申請書などの資料が配布され、科研費(特別研究促進費)によるもの5件、科学技術振興調整費(緊急研究)によるもの2件について報告がなされた。
- (5) 防災研究フォーラム平成16年度事業報告(資料9): 千木良委員より、4回にわたる幹事会、1月24-25日に第3回防災研究フォーラム「日米災害軽減に関するシンポジウム」を神戸で開催したこと、文科省研究開発局地震・防災研究課による災害調査の公募により3課題を採択したこと、海外災害調査は公募したが応募がなかったことが報告された。
- (6) データベース SAIGAI などについて(資料10): 川方裕則氏(林委員代理)より、データベース SAIGAI のデータ入力状況、科研費による災害史料データベースシステムの完成予定が報告されるとともに、京大防災研・巨大災害研究センターが開発しているクロスメディア・データベースの概要が披露された。平成17年度

の予定として、災害史料DBを含む SAIGAI のデータ入力・電子化の推進、災害史料DBの公開、クロスメディアDBの推進。

(7) 分科会活動(河川災害シンポジウム)について: 総務より、3月7日に国土館大学世田谷キャンパスで開催予定の河川災害シンポのプログラムが報告された。

5. 予算執行状況について(資料12): 総務より予算執行状況表が提示され、説明が加えられた。

6. 次期(平成17・18年度)協議会の構成について(資料13): 委員の交代について、次期委員の推挙があった分について報告がなされ承認された。また、協議会運営内容の継続性、次期議長選定までの議長の必要性から、前議長をオブザーバーに加えることが提案され承認された。新議長の選出方法について審議し、3月末までに次期協議会のメンバーを決定後、議長候補者を複数名佐々議長が推薦し、推薦された候補者の間で相談して一人に絞り、次回協議会に諮ることとした。

7. その他: 次回日程について、平成17年4月28日(木)午後2時から京大防災研で行うこととした。

(以上)